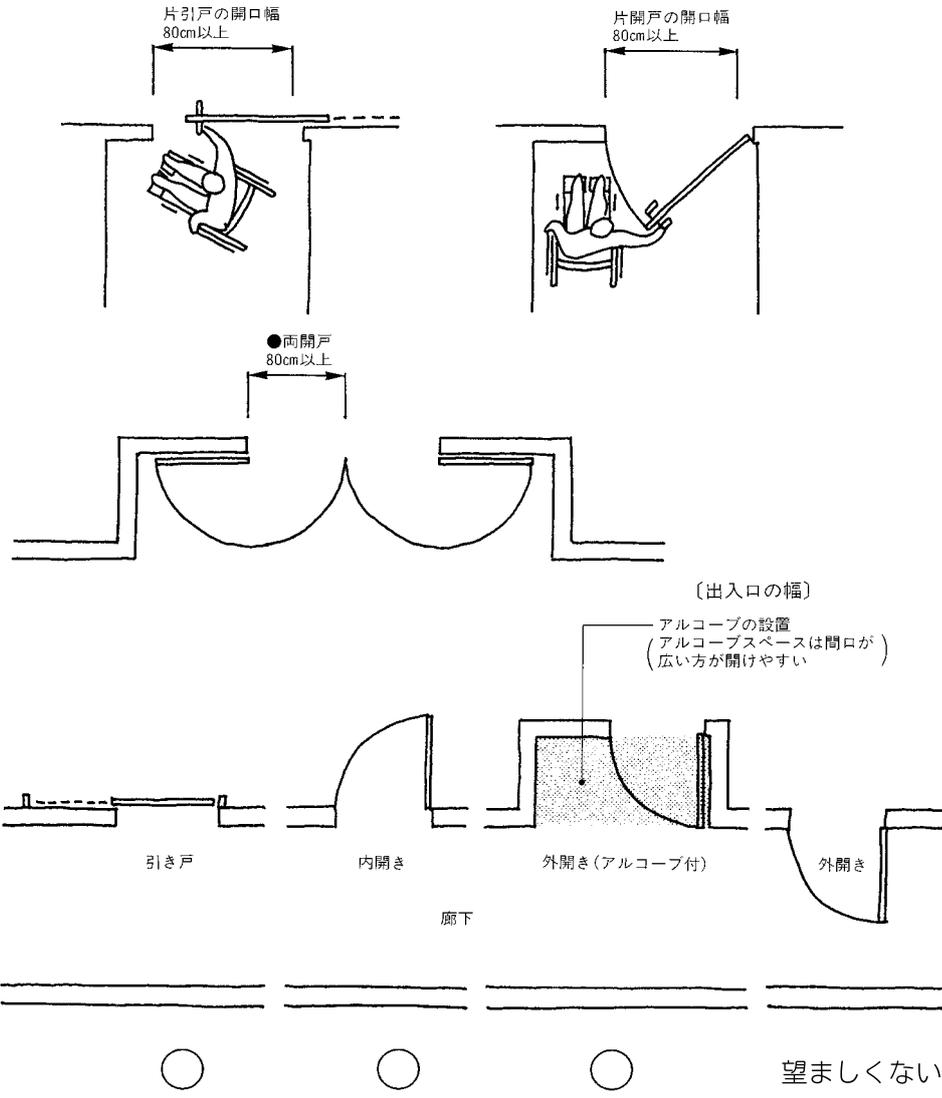


## II 建物編

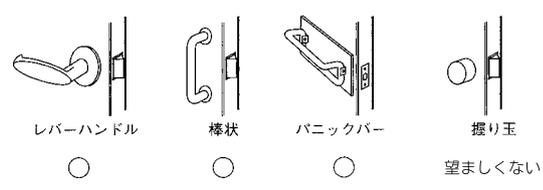


# 1. 出入口(1)

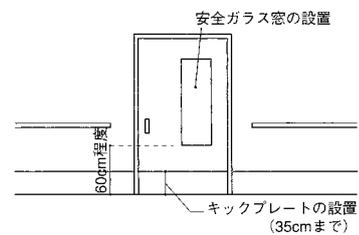


- 幅は内法を80cm以上とすること。
- 戸を設ける場合は、自動的に開閉する構造又は車椅子使用者が円滑に開閉して通過できる構造とすること。
- 車椅子使用者が通過する際に支障となる段を設けないこと。

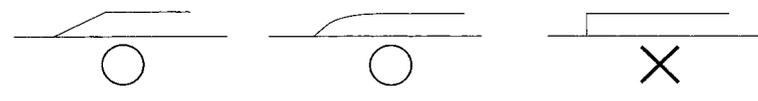
・ 取っ手の形式  
(使い易い形状の例示)



・ キックプレート・安全ガラス窓

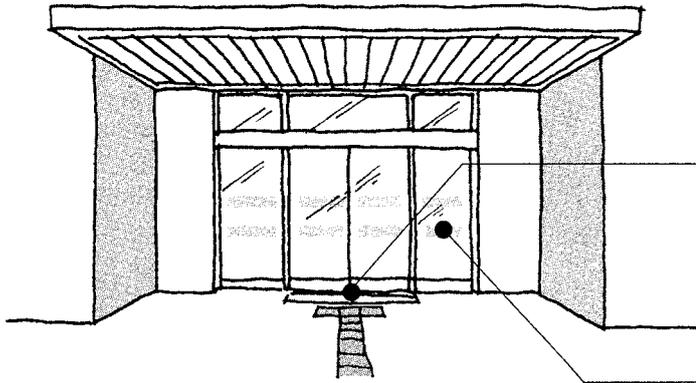


・ すりつけの例



- 義務基準
- △ 努力基準
- 参考基準

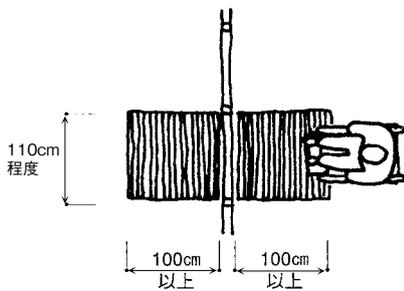
# 1. 出入口(2)



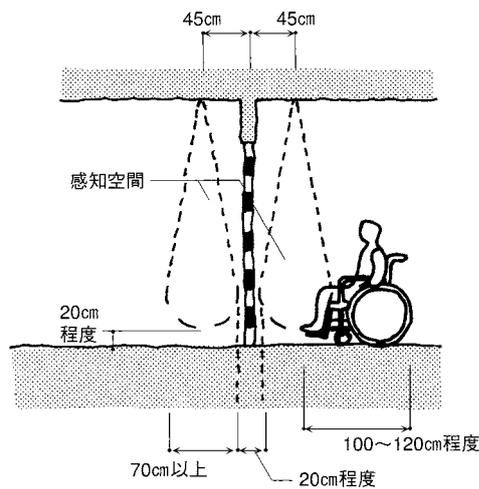
- 外部出入口は敷地内通路と連結させる。
- 車椅子の通行の支障となる段を設けない。
- 扉の全面が透明の場合には、衝突を防止する措置を講ずる。

## ・自動ドアの感知方式 (参考)

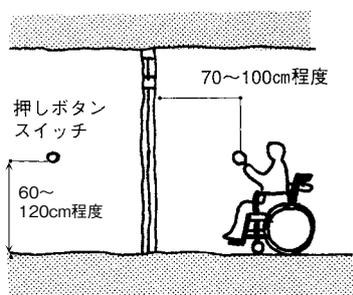
マットスイッチ(床面感知)



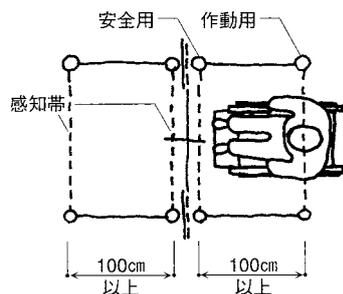
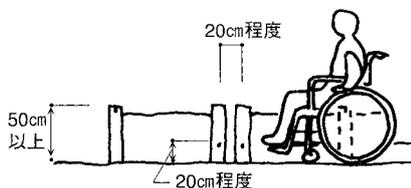
超音波スイッチ(空間感知)



押しボタンスイッチ(点感知)

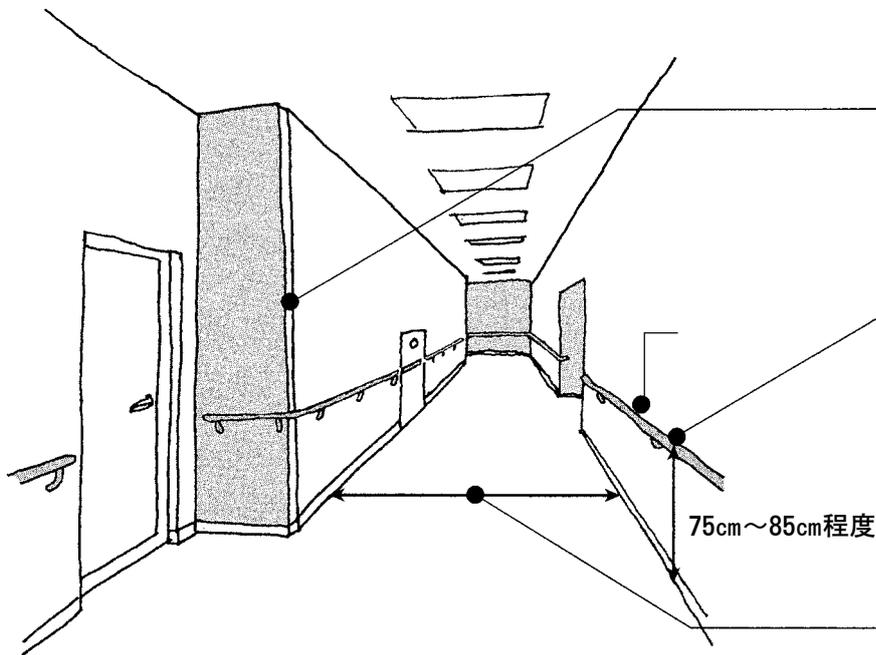


光線スイッチ(線感知)



- 義務基準
- △努力基準
- 参考基準

## 2. 廊下等



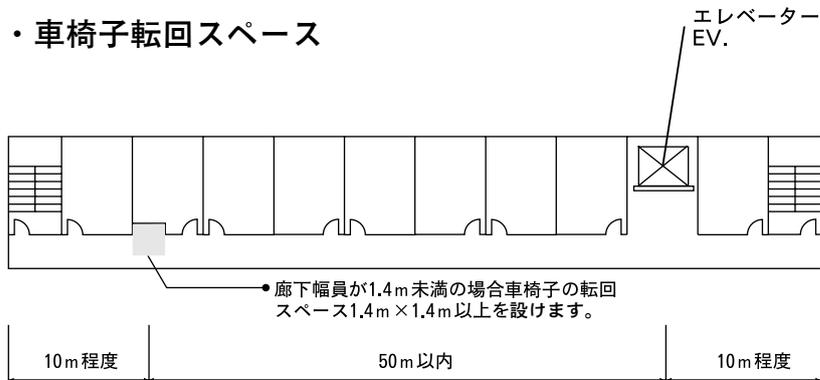
○ 床面は滑りにくい素材とし段差を設けない。やむを得ず高低差がある場合にはスロープ等を設置する。

□ 柱や曲り角のコーナーは面取りを行う。

□ 老人福祉施設または医療施設の廊下には手すりを設ける。

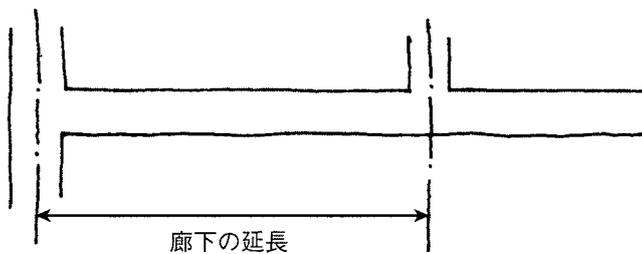
○ 一以上の経路等の廊下等について幅員は、120cm以上とする。  
(手すりの内側が望ましい。)

### ・車椅子転回スペース



● 廊下幅員が1.4m未満の場合車椅子の転回スペース1.4m×1.4m以上を設けます。

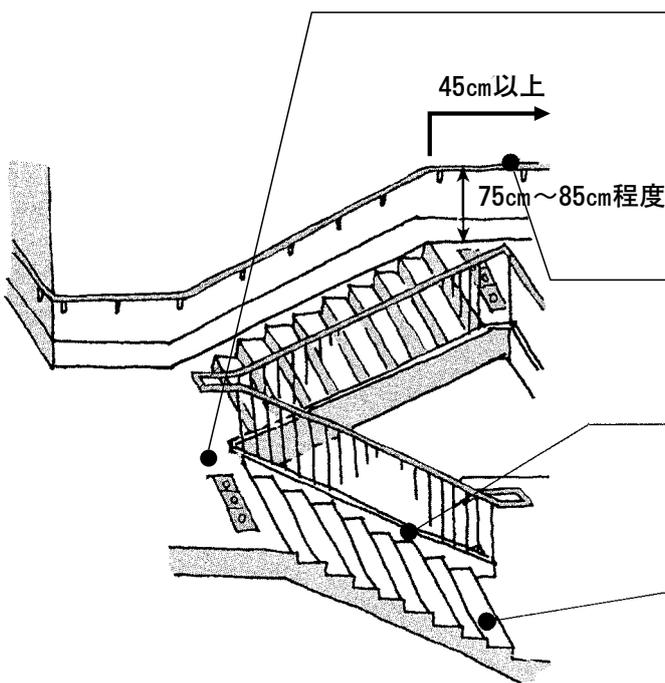
○ 廊下の延長が50mを超える場合50m以内ごとに車椅子が転回できるスペースを設ける



※廊下の延長とは廊下が交差する部分の中心間距離をさします。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

### 3. 階 段

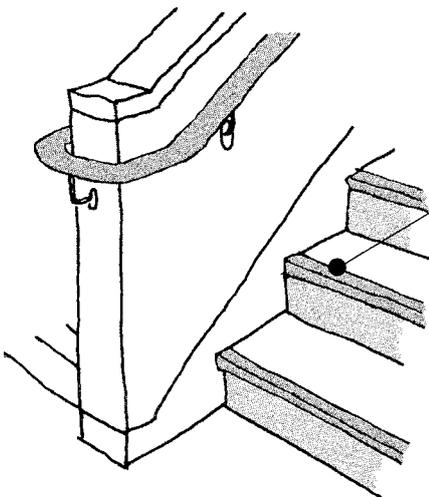


○ 階段及び踊場には、注意喚起用床材を敷設する。ただし、視覚障害者の利用上支障のない場合においては、この限りではない。

○ 階段には手すりを設けること。

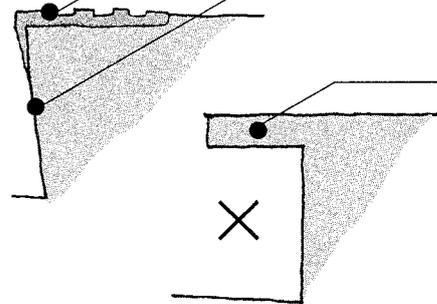
□ 側面が壁でない場合には側板又は立ち上がりを設ける。

○ 表面は粗面仕上げとし、又はすべりにくい材料とする。

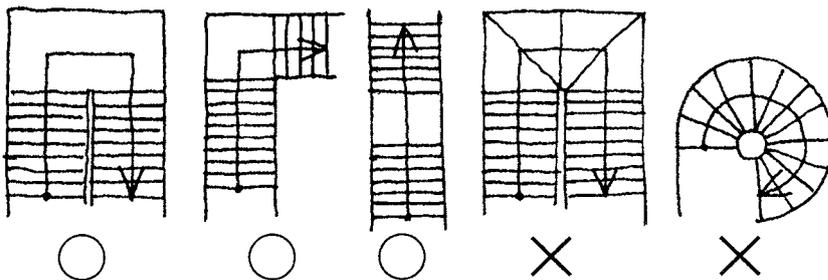


○ 段を識別しやすいもので明度差の大きいものとする。

○ つまづきにくい構造とする。



□ 踏面は著しく突出させない。



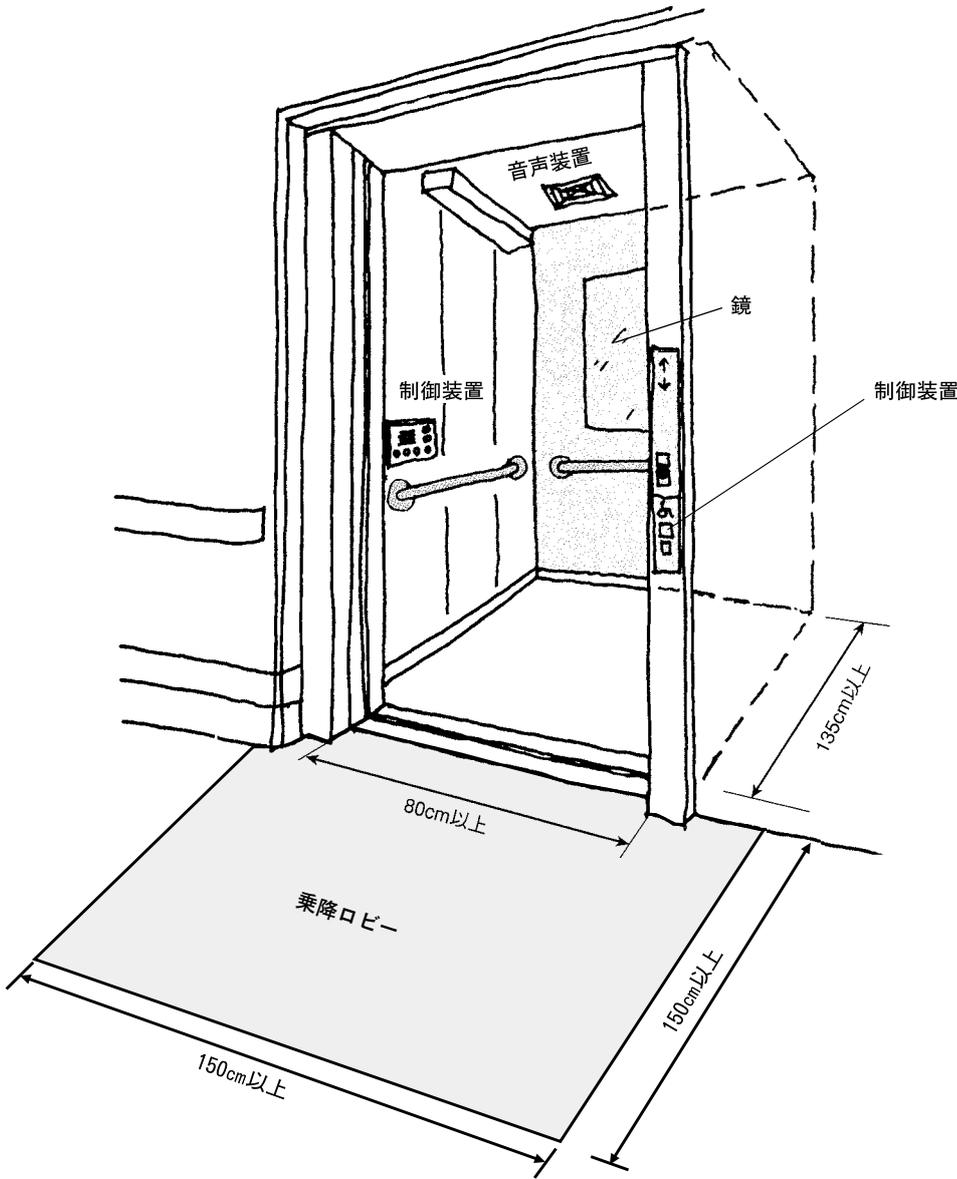
○ 主たる階段は回り階段としない。ただし、構造上回り階段を設けない構造とすることが困難な場合においては、この限りではない。

● 回り階段以外の例

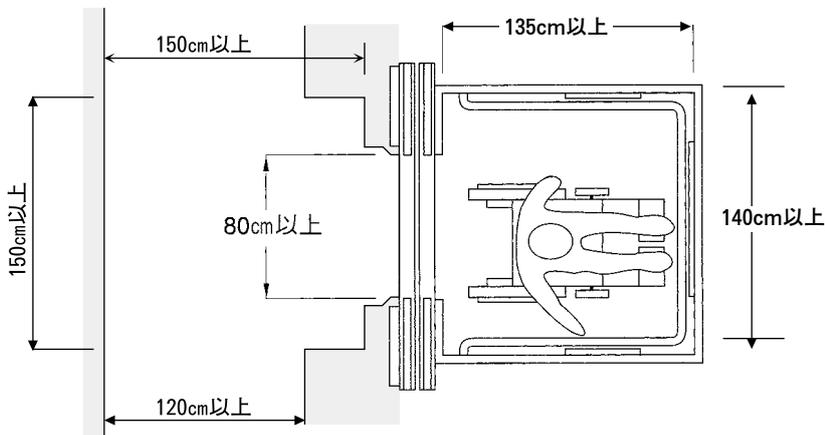
● 回り階段の例

○ 義務基準  
△ 努力基準  
□ 参考基準

## 4. エレベーター



### ・入口、幅、奥行の例

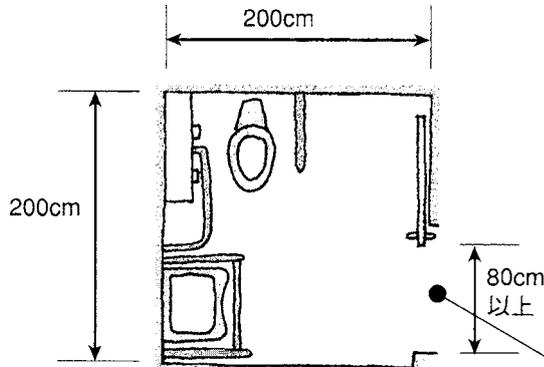


- 籠は、利用居室、車椅子使用者用便所又は車椅子使用者用駐車施設がある階および地上階に停止すること。
- 籠内及び乗降ロビーに、車椅子使用者が利用しやすい制御装置を設置すること。視覚障害者対応。
- 籠内に、籠の停止予定階、現在位置を表示する装置を設置すること。
- 乗降ロビーに、到着する籠の昇降方向を表示する装置を設置すること。
- 籠は、車椅子の転回に支障がない構造とすること。
- 籠内に、籠が到着する階、籠及び昇降路の出入口の戸の閉鎖を音声で知らせる装置を設置すること。
- 籠内及び乗降ロビーに、到着する籠の昇降方向を音声で知らせる装置を設置すること。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

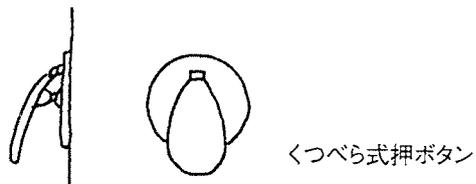
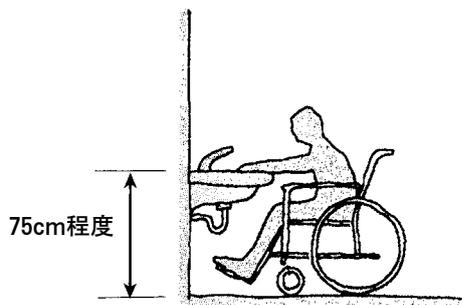
# 5. 便 所(1)

・車椅子で利用できる便房例（2 m × 2 m サイズ）

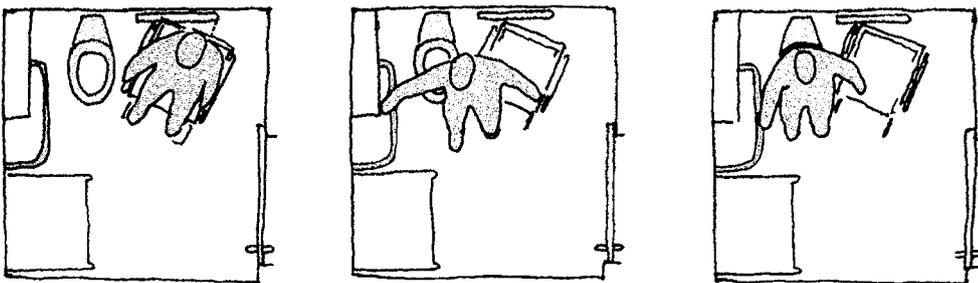


○ 腰掛便座、手すり等が適切に設けられていること。

○ 車椅子使用者が円滑に開閉して通過できる構造とする。



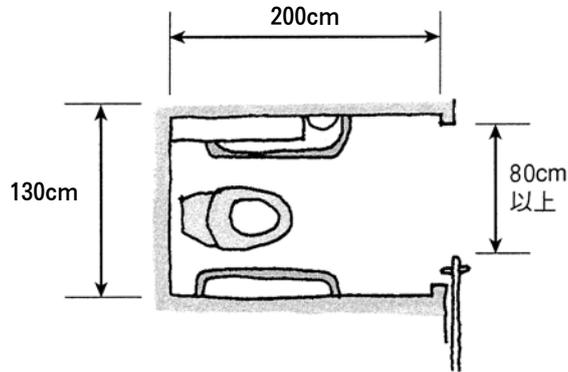
—— 車椅子から便器への乗り移り動作の例 ——



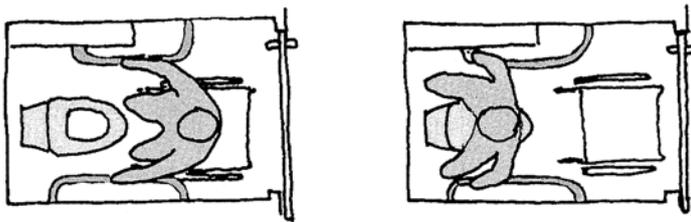
○ 義務基準  
△ 努力基準  
□ 参考基準

## 5. 便所(2)

- ・車椅子で利用できる便房例（2.0 m× 1.3 mサイズ）



—— 車椅子から便器への乗り移り動作の例 ——



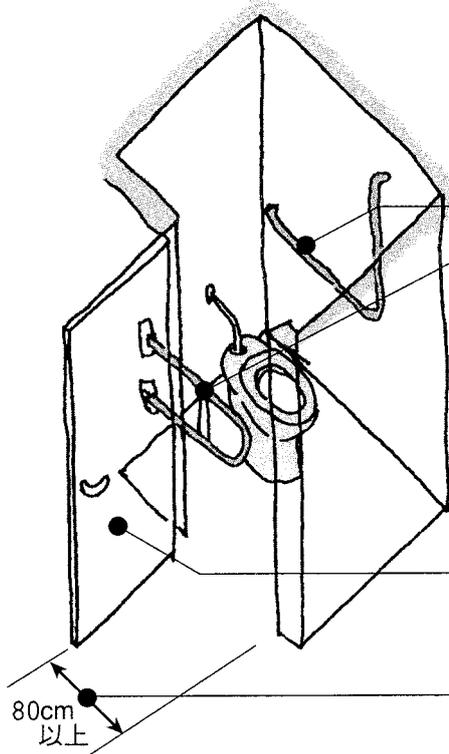
このアプローチの場合座り心地が不安定であることと、下着を全部脱がないと使用しづらいことなどから、公共トイレとしては好ましくありません。

- 車椅子使用者が円滑に開閉して通過できる構造とする。
- 出入口は引き戸又は外開き戸とする。
- 便器の両側に手すりを設ける。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

## 5. 便所(3)

### ・便房

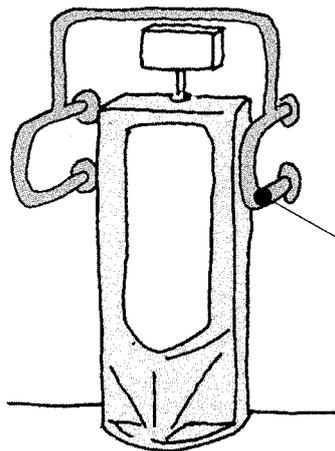


□ 便器の両側に手すりを設置すること。

□ 戸は引き戸又は外開き戸とする。

○ 出入口の幅は、内法80cm以上とする。

### ・小便器



○ 1以上を床置き式の小便器等とする。

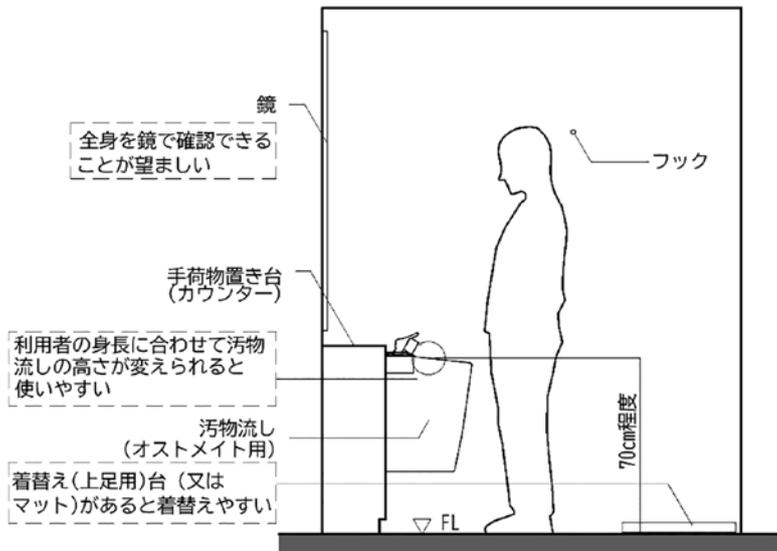
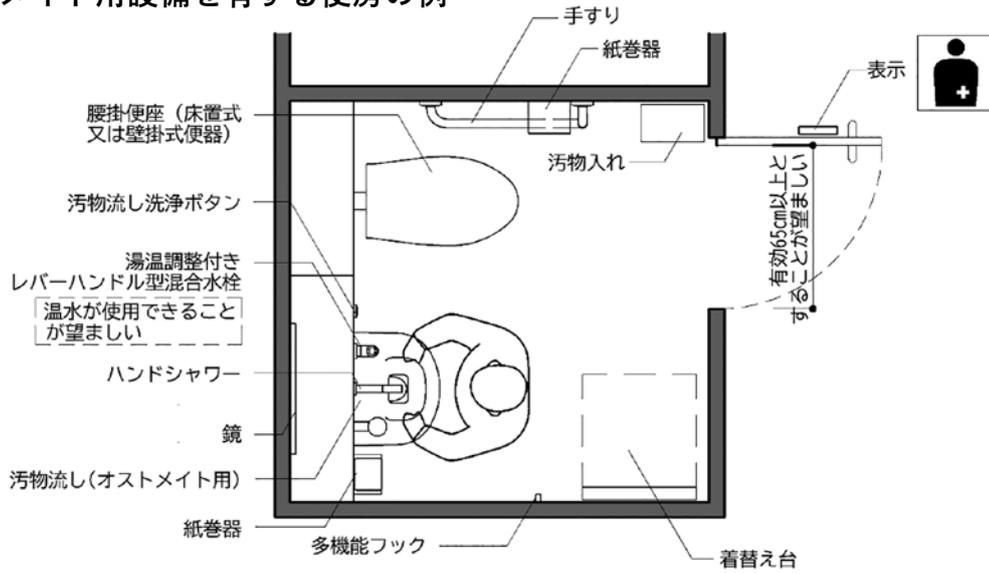
□ 周囲に手すりを設置すること。

※壁掛け式の小便器とする場合は、受け口の高さが35cm以下のものに限る。

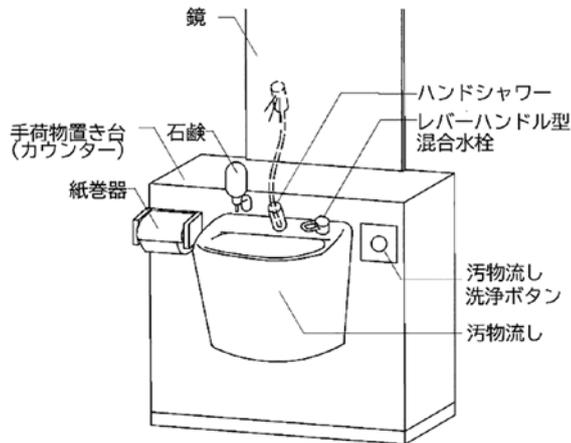
便器の洗浄はくつぺら式、光感知式等容易なものとし、非常ボタンを設置します。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

・オストメイト用設備を有する便房の例

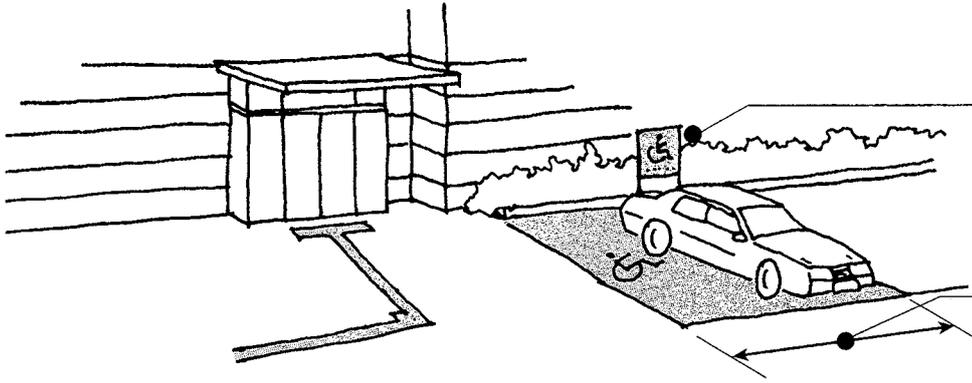


・汚物流し（オストメイトに配慮した設備）の例



参考『高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準（国土交通省）』

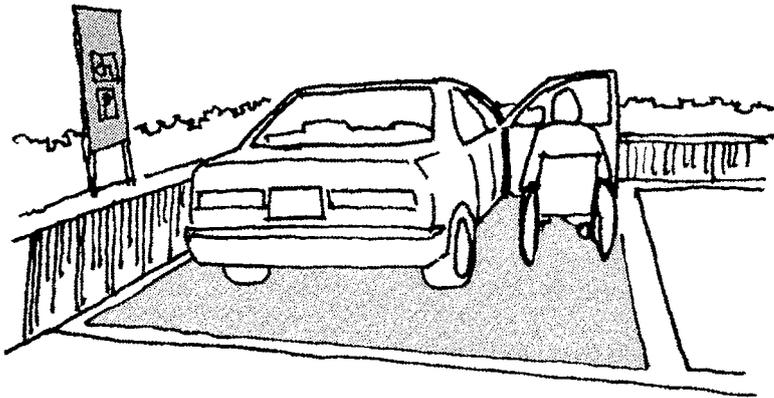
## 6. 駐車場



○ 建物出入口に近い位置に車椅子使用者用駐車施設を設ける。

○ 車椅子使用者用である旨の表示をする。

○ 幅350cm以上とする。

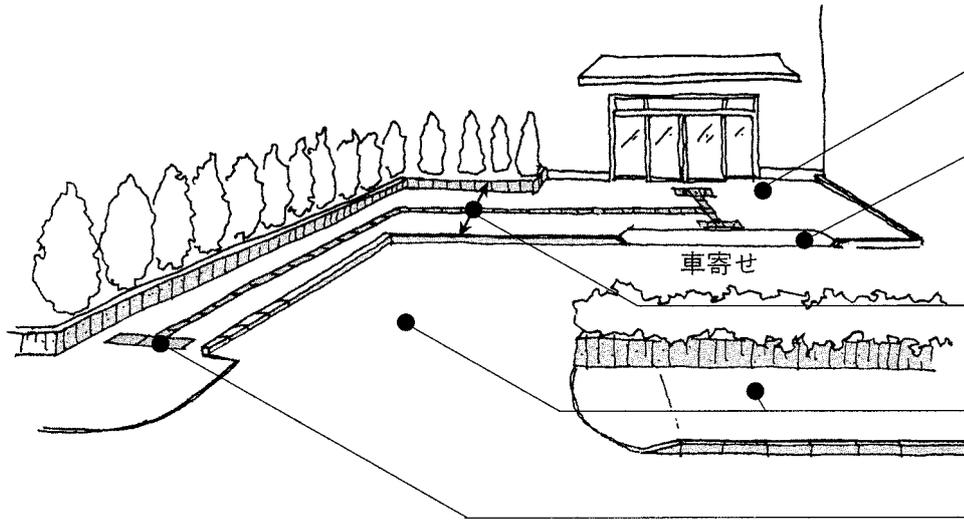


国際シンボルマーク  
車椅子使用者のみならず、すべての障害者が利用可能であることを示すマーク。

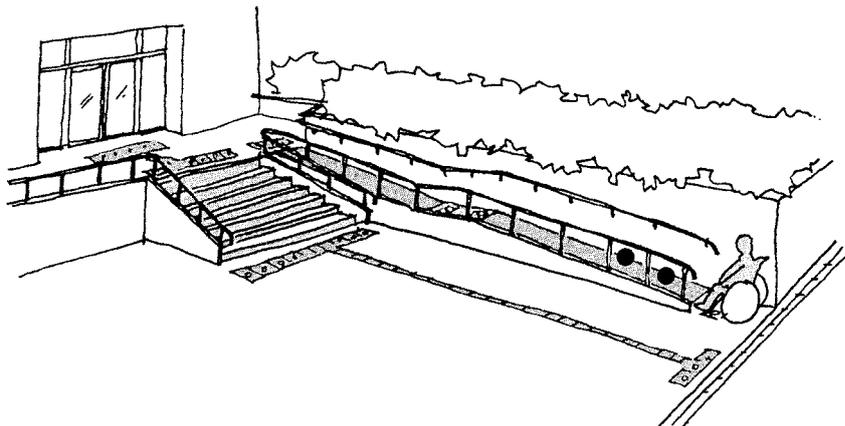
○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

## 7. 敷地内の通路

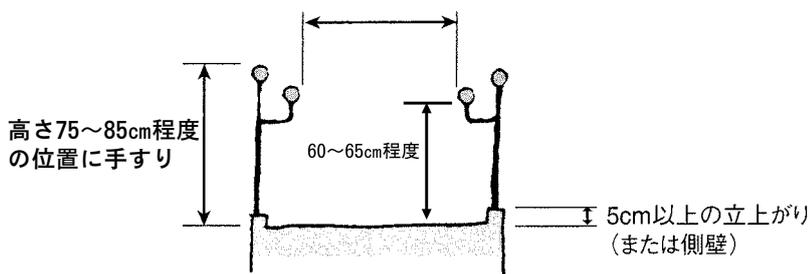
・高低差がない場合



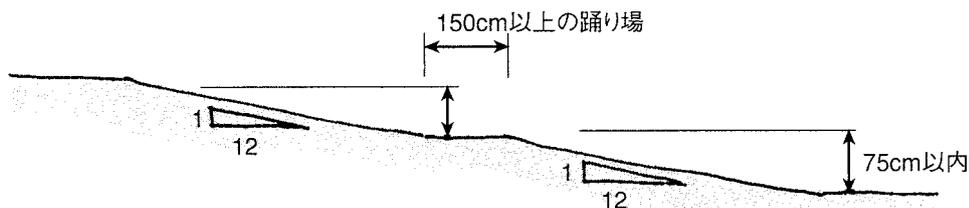
・高低差がある場合



有効幅員120cm以上（階段を併設する場合には90cm以上）



スロープ横断面図

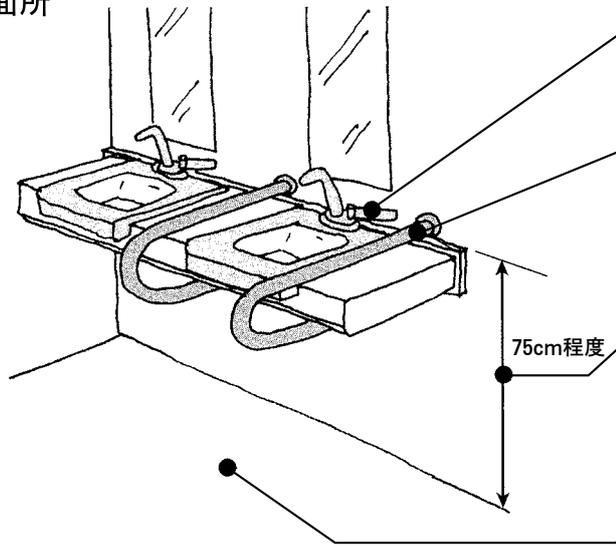


スロープ縦断面図

- 敷地の接する道路から外部出入口までの敷地内通路の1以上を次のいずれにも該当するものとする。
  - 滑りにくい仕上げとする。
  - 排水溝は表面が滑りにくく車椅子のキャスターが落ち込まないものとする。
  - 有効幅員は120cm以上とする。
  - 歩道と車道を分離するよう努める。
  - 誘導用床材を敷設するか、または音声により誘導する装置等を設ける。ただし、常時勤務する者により視覚障害者を誘導できる場合その他視覚障害者の誘導上支障のない場合においては、この限りでない。
  - スロープ又は昇降機を設置する。
  - スロープの表面は踊り場やスロープの前後部分の色彩と区別できるものとする。
  - 勾配は1/12を超えないこと
  - スロープの代わりに特殊昇降機を用いてもよい。
- 義務基準  
△努力基準  
□参考基準

## 8. 洗面所

### ・洗面所



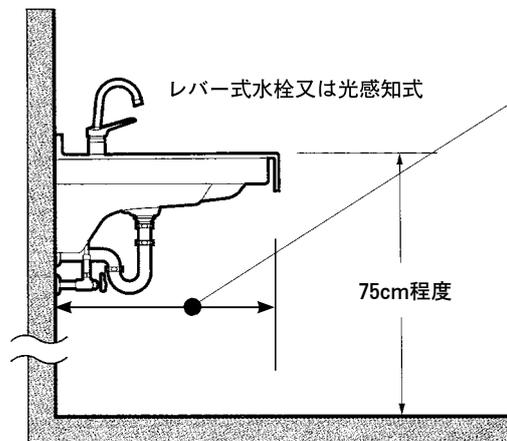
○ 水栓器具はレバー式または光感知式など操作が容易なものとする。

□ 洗面器の周囲に手すりを設置する。

○ 高さ75cm程度とする。

○ 床仕上げは粗面又は滑りにくいものとする。

### ・洗面器の最適高さ



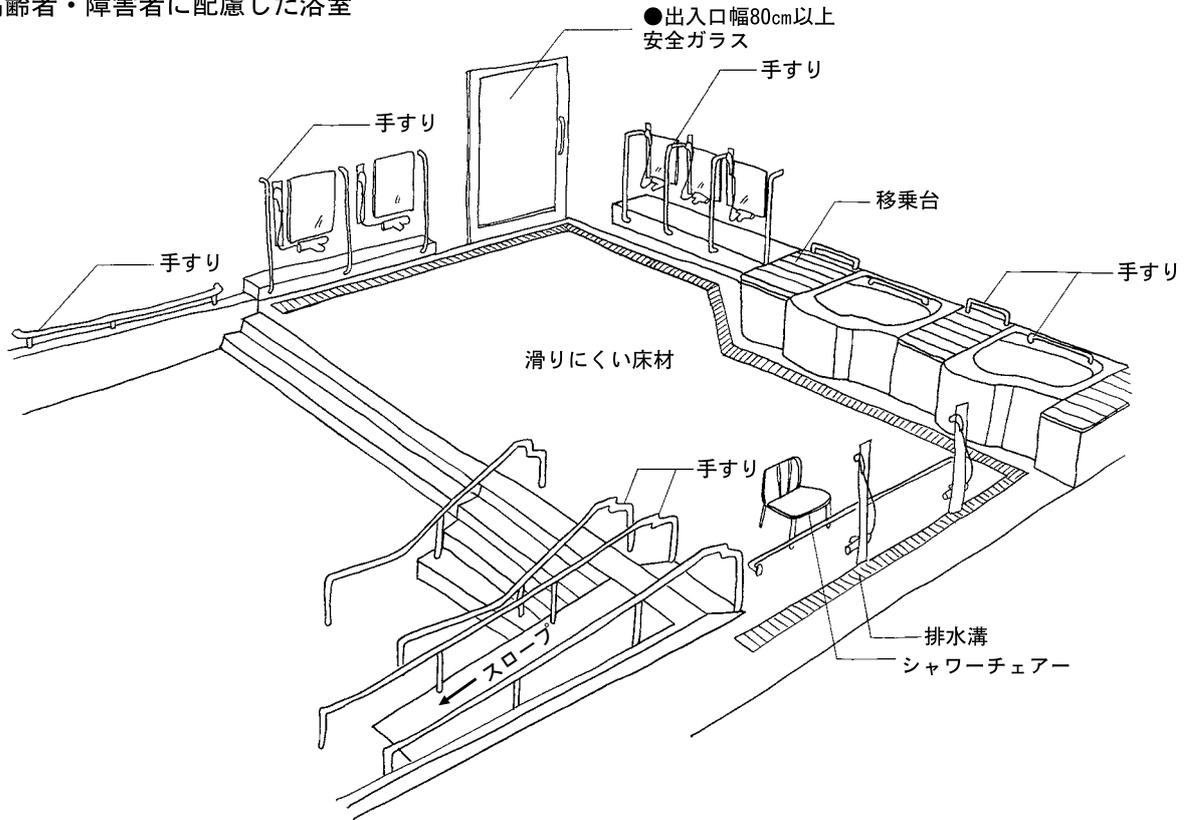
○ 水栓に手が届きやすいように奥行はなるべく浅くする。

○ 義務基準  
△ 努力基準  
□ 参考基準

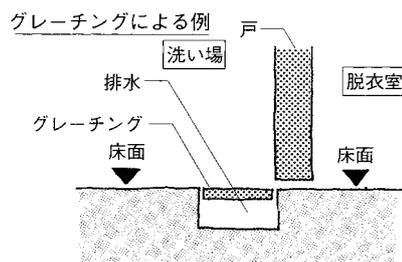
# 9. 共同浴室

○ 床面は粗面又は滑りにくい仕上げとする。

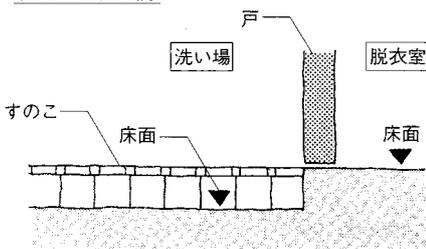
・ 高齢者・障害者に配慮した浴室



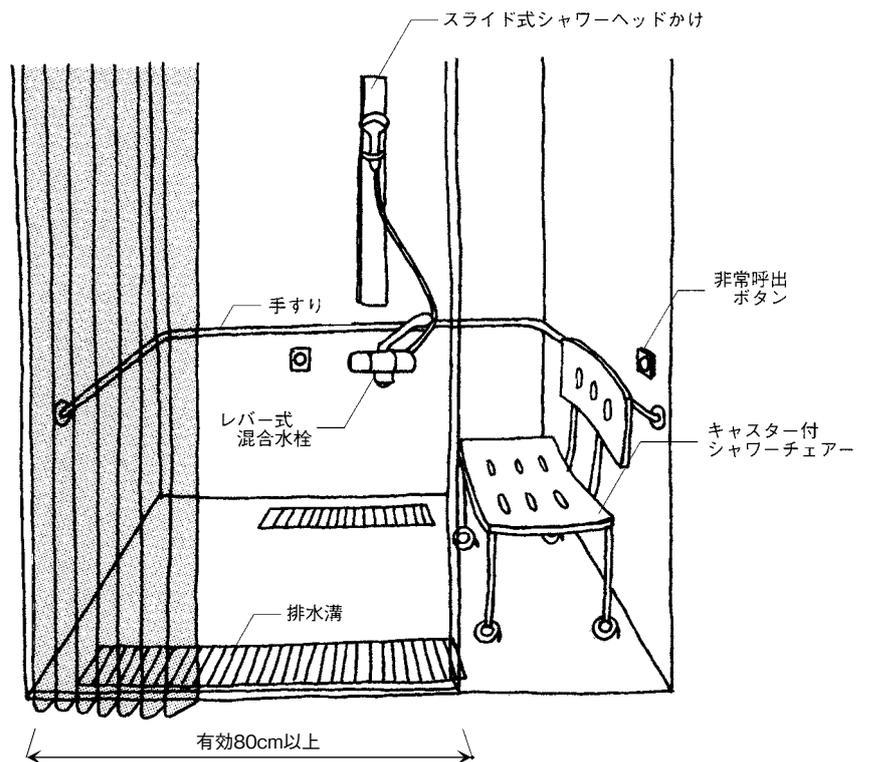
・ 出入口段差解消例



すのこによる例

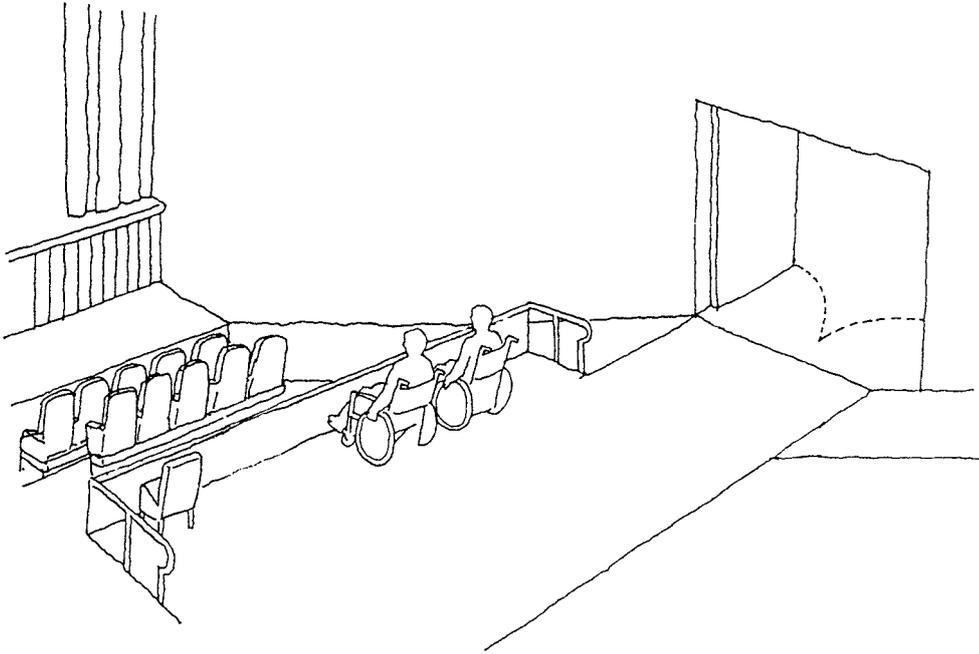


・ 高齢者・障害者に配慮したシャワー

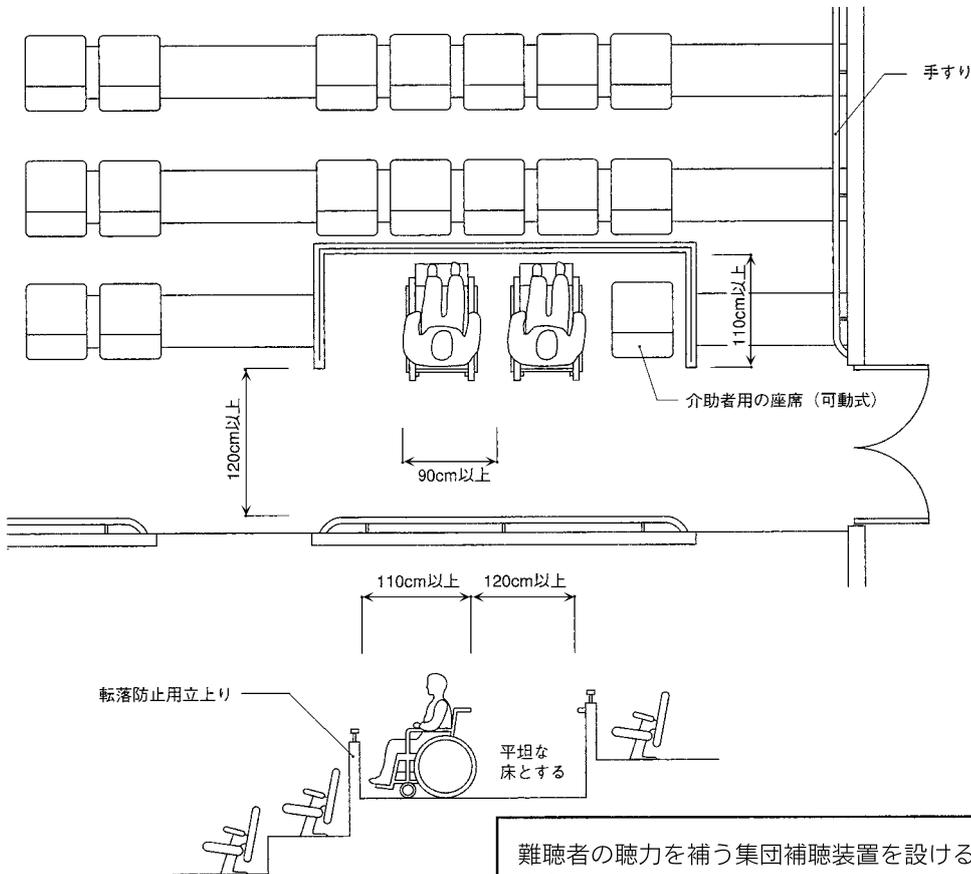


## 10. 客席等

### ・車椅子で利用できる観客席、スペース



### ・観客席の例



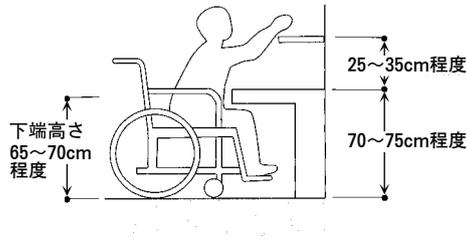
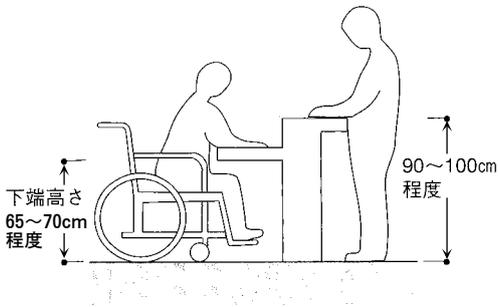
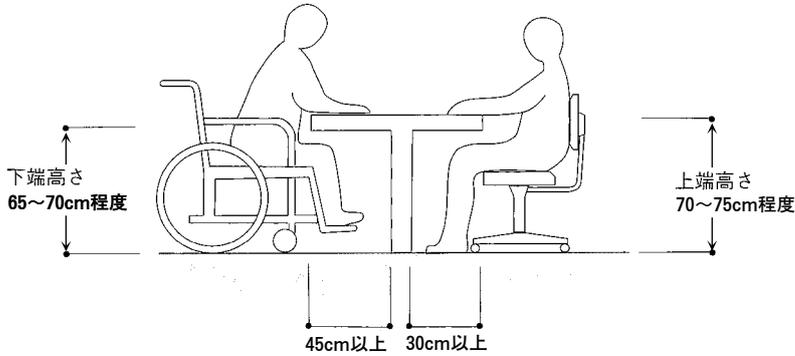
難聴者の聴力を補う集団補聴装置を設けるよう努めます。

- 出入口付近に設ける。
- 出入口までの段差をなくし、やむを得ず高低差がある場合にはスロープ等を設置する。
- 床面は滑りにくい材料で仕上げ、かつ水平とすること。
- 車椅子使用者席の後方に車椅子使用者の出入り及び転回に支障のない部分を設けること。

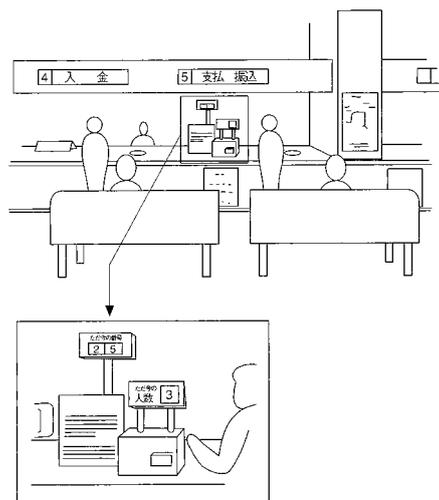
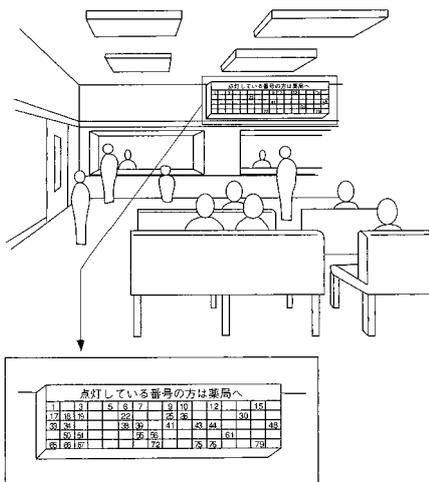
○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

# 11. 受付カウンター等

## ・カウンターの例



## ・電光掲示の例



△ カウンターの高さは70cm程度とし下端の有効高さは65cm程度とする。

△ 車椅子利用者のために奥行は45cm程度とする。

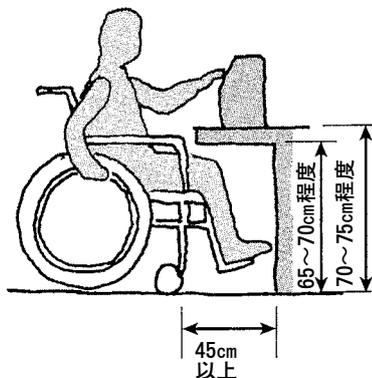
△ 聴覚障害者用電光掲示板

△ 視覚障害者用音声装置

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

## 12. 公衆電話所

### ・ 公衆電話の例

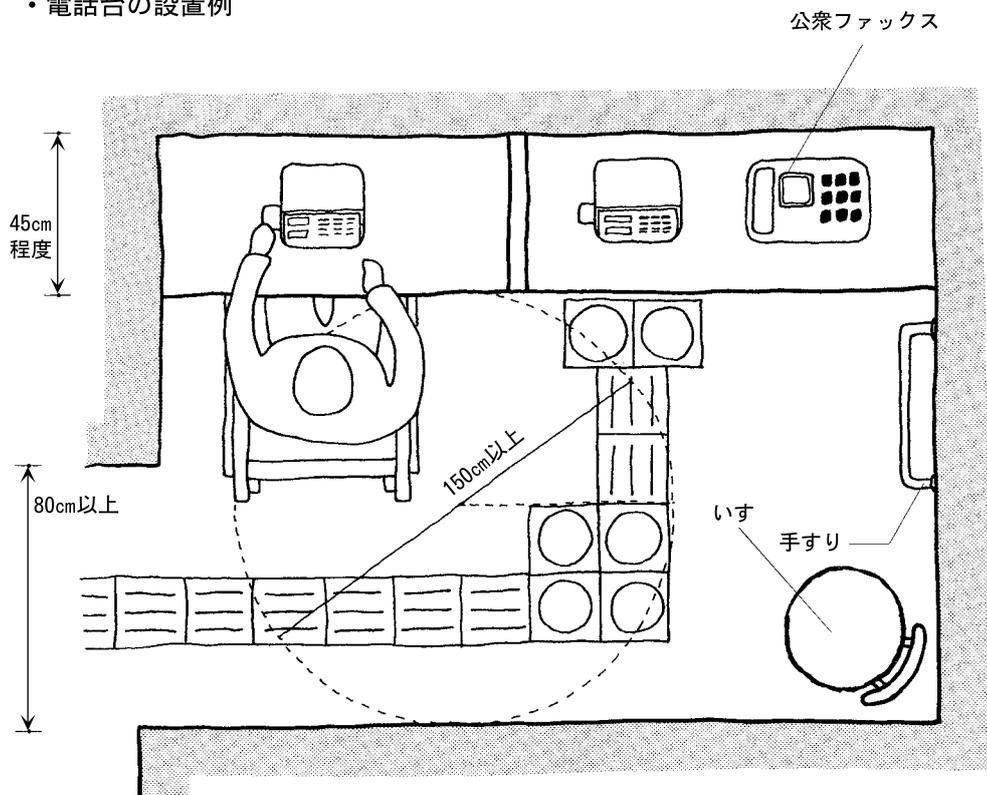


視覚障害者用ダイヤル、聴覚障害者用音量増幅装置付受話器、上肢の巧緻障害（こまかい手の動きができないことをいう）者用プッシュホン式などの電話機もあります。

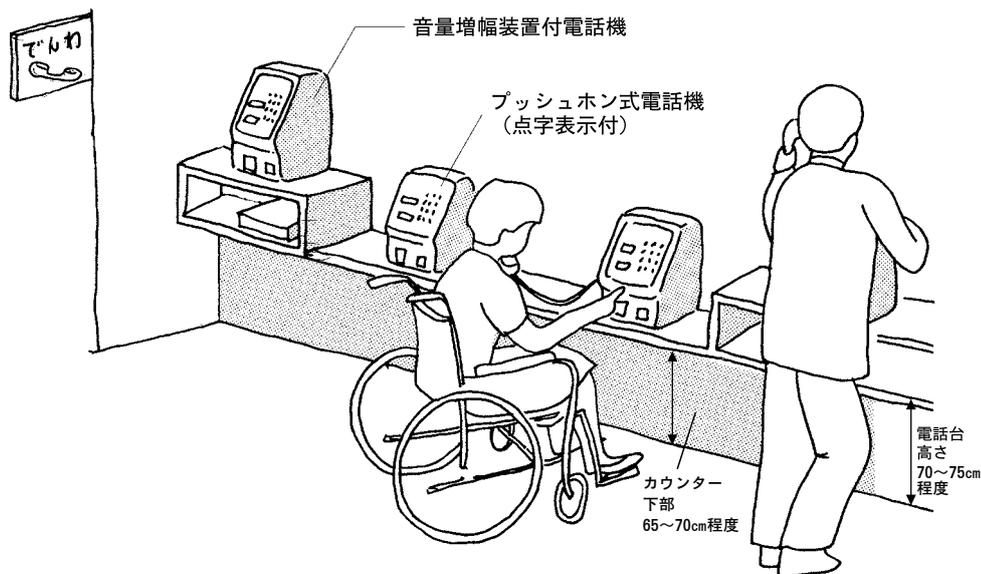
- △ 1以上を次のいずれにも該当するものとするよう努めること。
- △ 高さは70~75cm程度であること。
- △ 膝下スペースは高さは65~70cm程度、奥行45cm以上であること。
- △ 難聴者に対応した電話機を設置するよう努める。
- △ ファクシミリを設置するよう努める。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

・電話台の設置例



□ 車椅子が転回できる  
よう1以上の円（直  
径150cm以上）が内  
接するスペースを確  
保する。



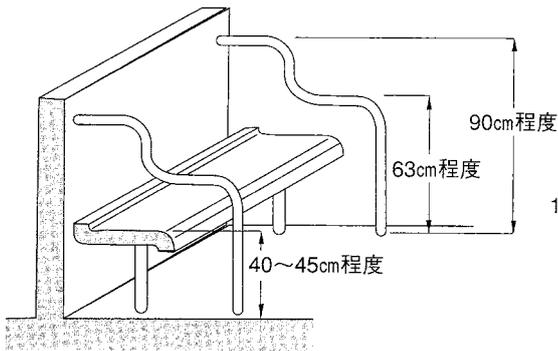
△ 電話台の高さは70～  
75cm程度カウンター  
下部は65～75cm程度  
確保する。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

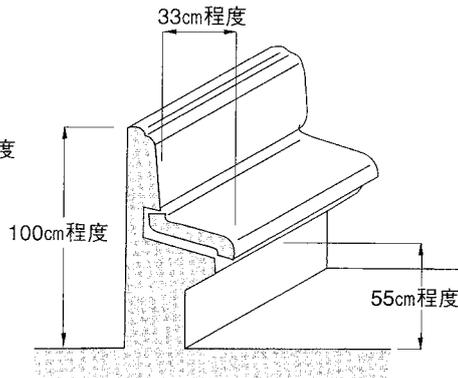
# 13. 休憩所

△ 休憩用の施設を設けるように努める。

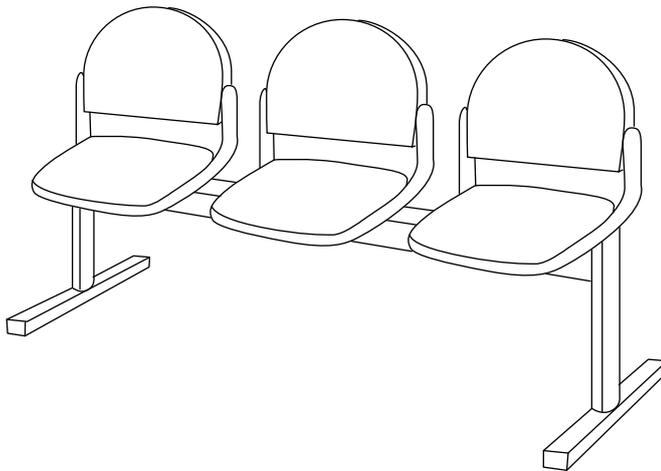
一般用ベンチの例



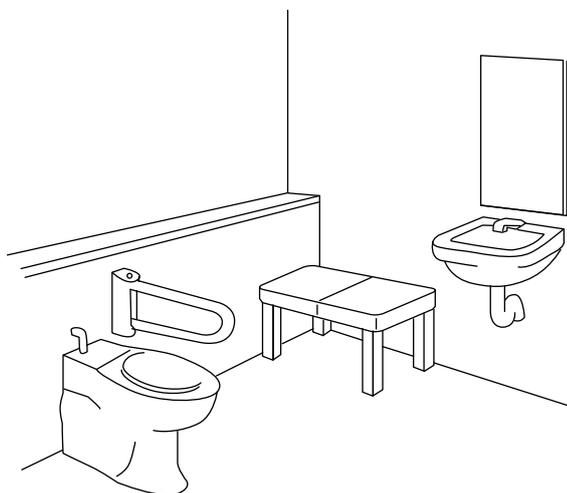
杖使用者用ベンチの例



休憩コーナーのイスの例



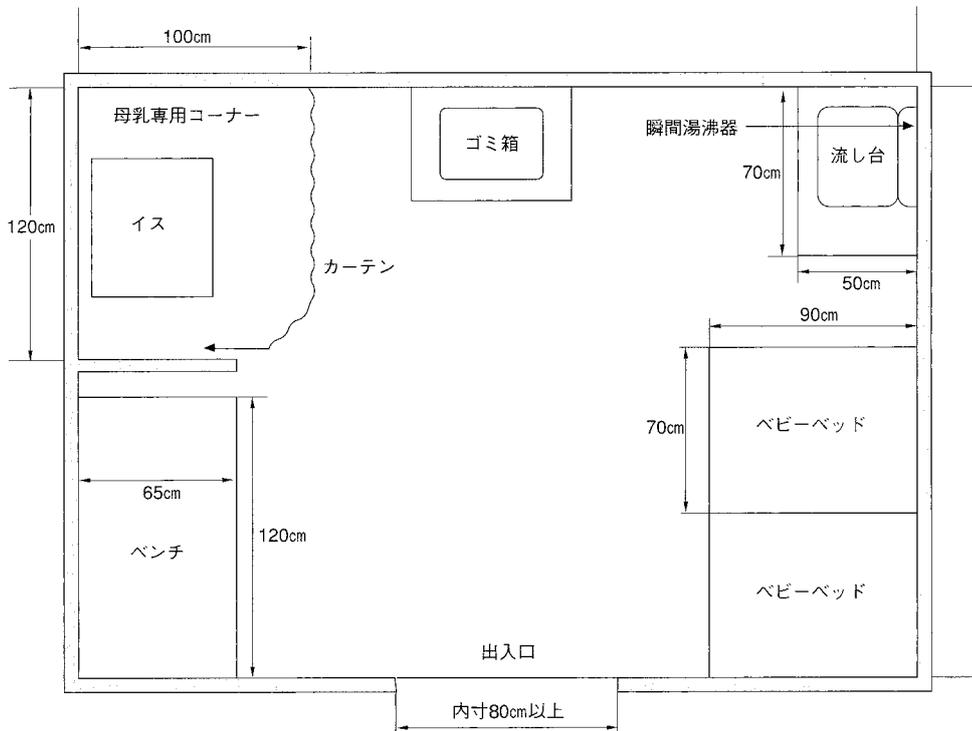
多目的便所の例



○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

## 14. 授乳場所

### ・授乳場所の例



### ・ベビーシートの例

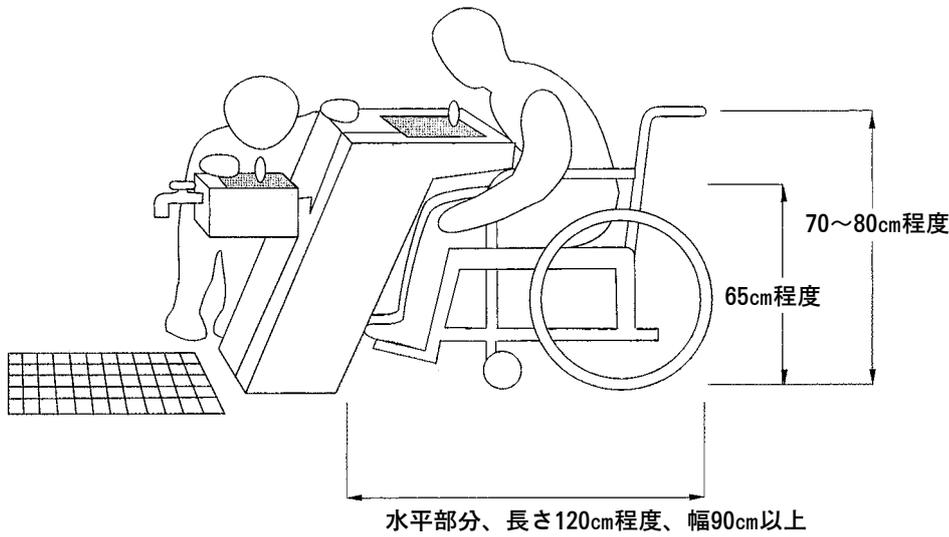


- 子ども連れの者が、授乳やおむつを取り替えることができる広さとする。
- 出入口はベビーカーが通れる広さ（内法80cm以上）とし、段差は設けない。
- 入口は安全のため、オープンにするか、室内が見えるような窓付きの扉が望ましい。
- 母乳専用コーナーを設けることが望ましい。
- 授乳ができるように、イスまたはベンチを設置することが望ましい。

○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

# 15. 水 飲 器

## ・水飲み器の例



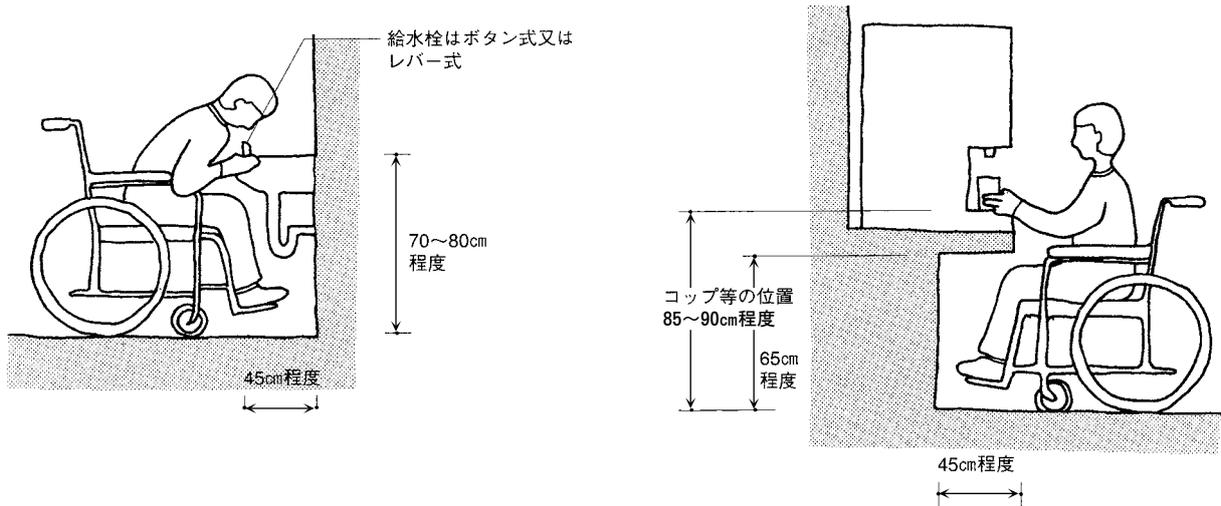
△ 1以上は車椅子利用者に配慮したものと  
する。

△ 給水栓は容易に操作  
できるものとする。

△ 車椅子使用者の利用  
に配慮した空間を確  
保する。

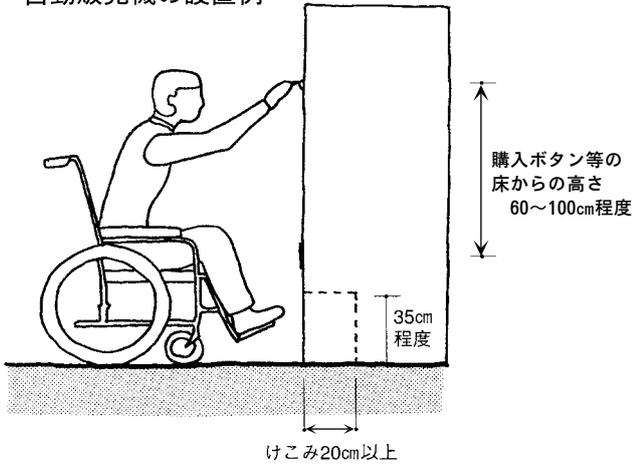
- 義務基準
- △努力基準
- 参考基準

## ・水飲み器の設置例

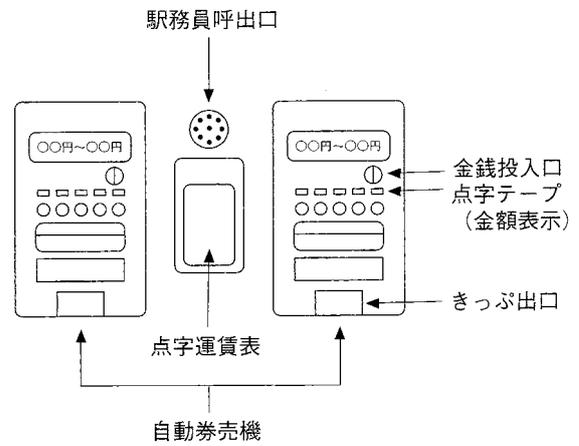


# 16. 券売機等

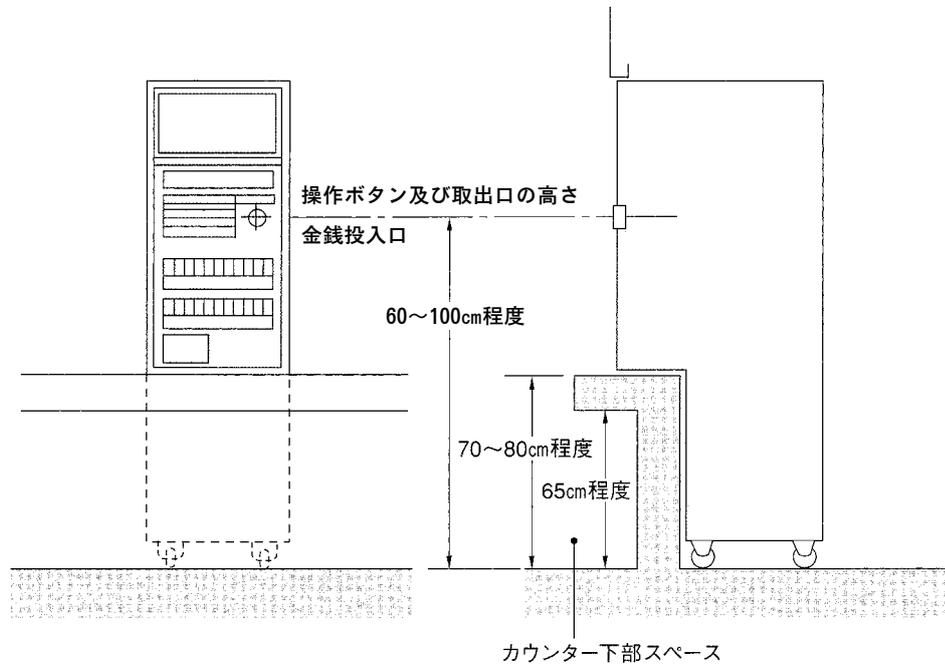
## ・自動販売機の設置例



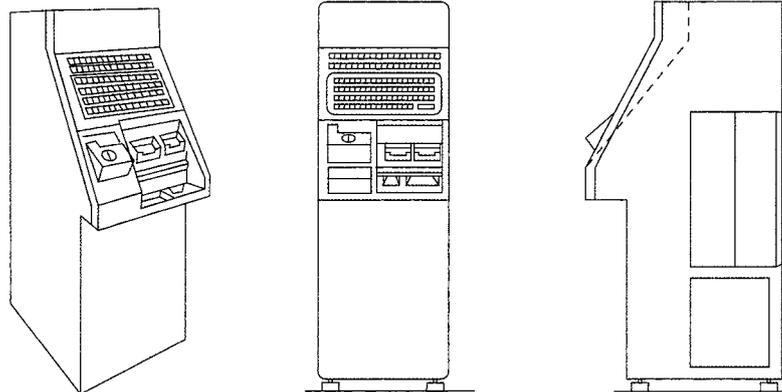
## ・点字運賃表



## ・券売機の例

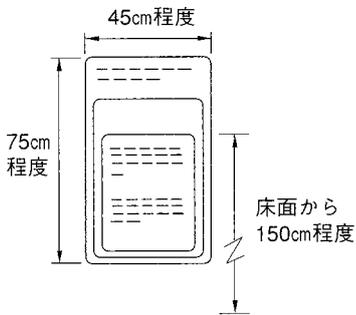


券売機

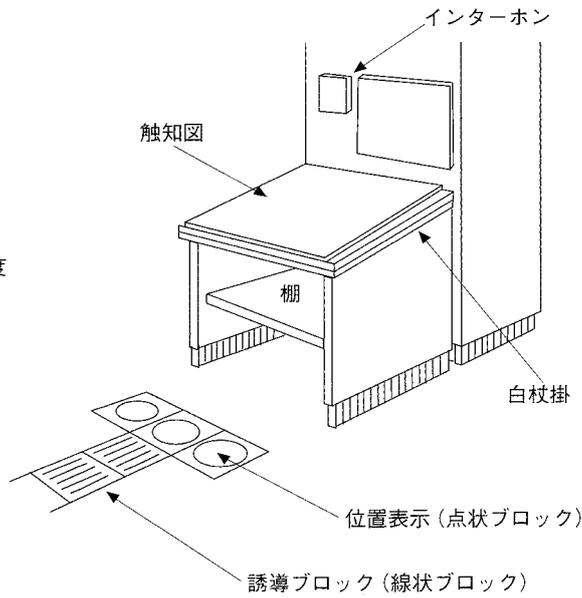


# 17. 案内表示等

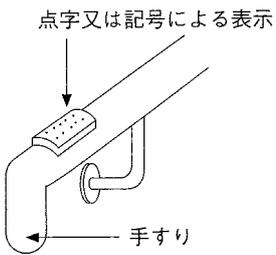
点字案内板の例



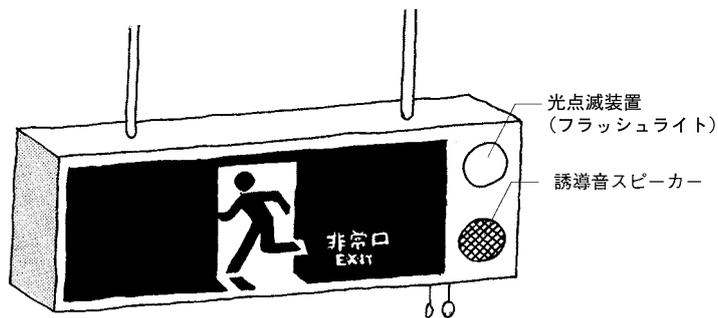
触知図式案内板の例



手すり点字テープ



・一体型避難誘導灯

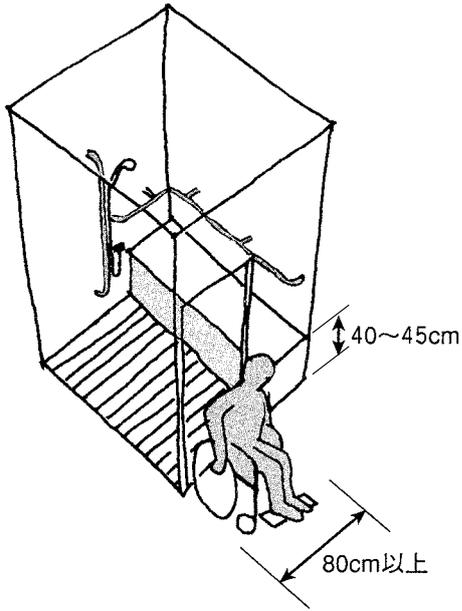


- △ 高さ、照明、文字の大きさ等、高齢者等が見やすいものであること。
- △ 点字による表示に努める。
- △ 車椅子で利用できる便所がある場合は、表示する。
- △ 非常警報装置は共通事項参照。

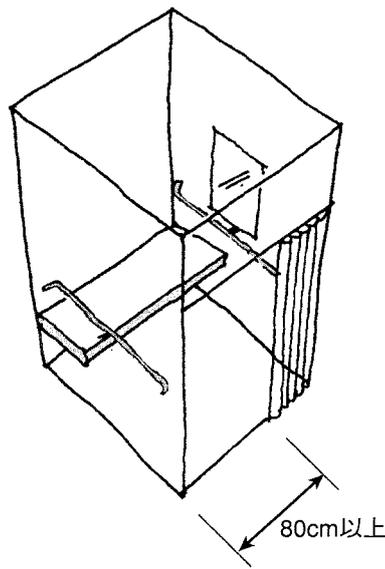
○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

# 18. 更衣室等

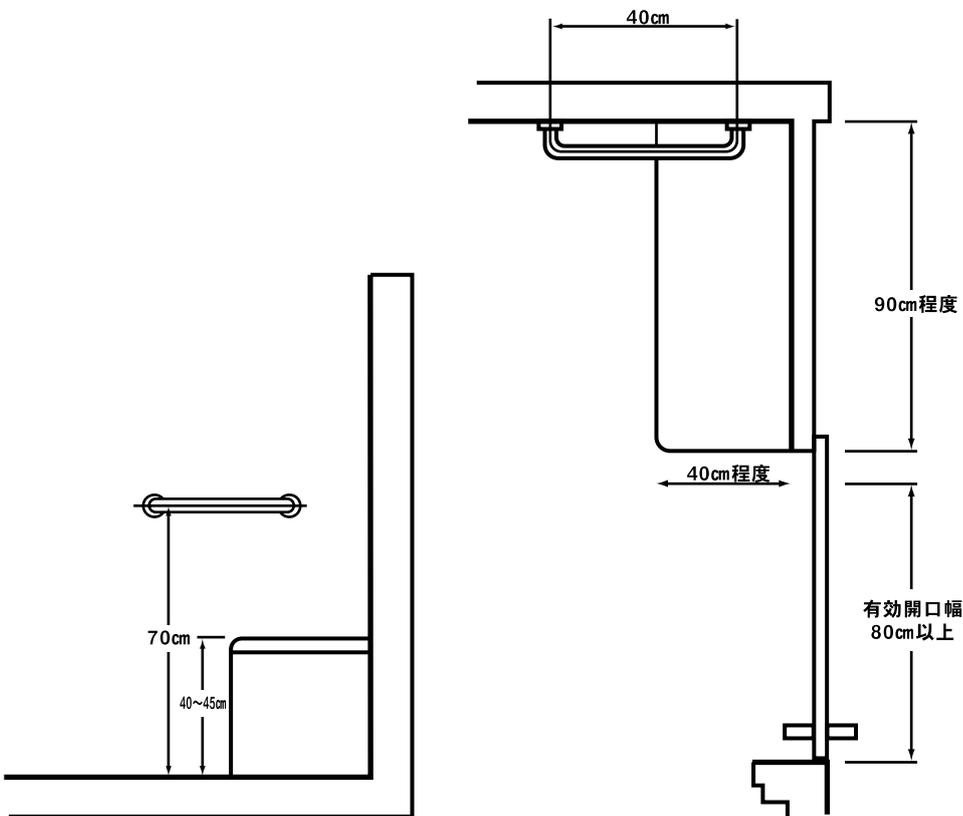
・シャワー室



・更衣室

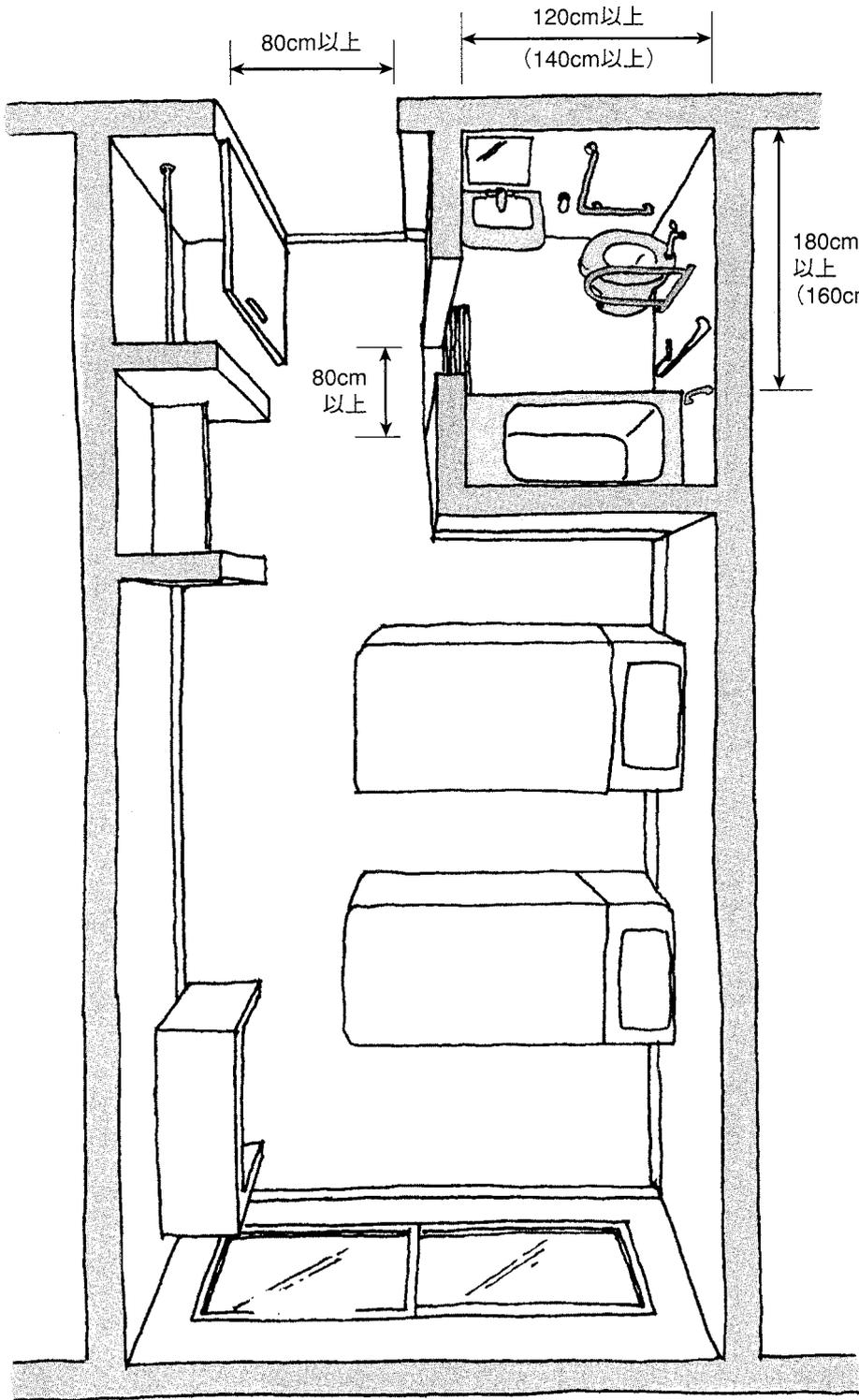


- 出入口の有効幅は80cm以上とする。
- 高さ40cmから45cmまでの腰掛台を設置する。
- 手すりを設置する。
- 床面は粗面又は滑りにくい仕上げとする。
- 出入口には段を設けない。
- △ 水栓器具は容易に操作できるよう配慮する。
- △ 非常警報装置は共通事項参照。



○義務基準  
△努力基準  
□参考基準

# 19. 客 室

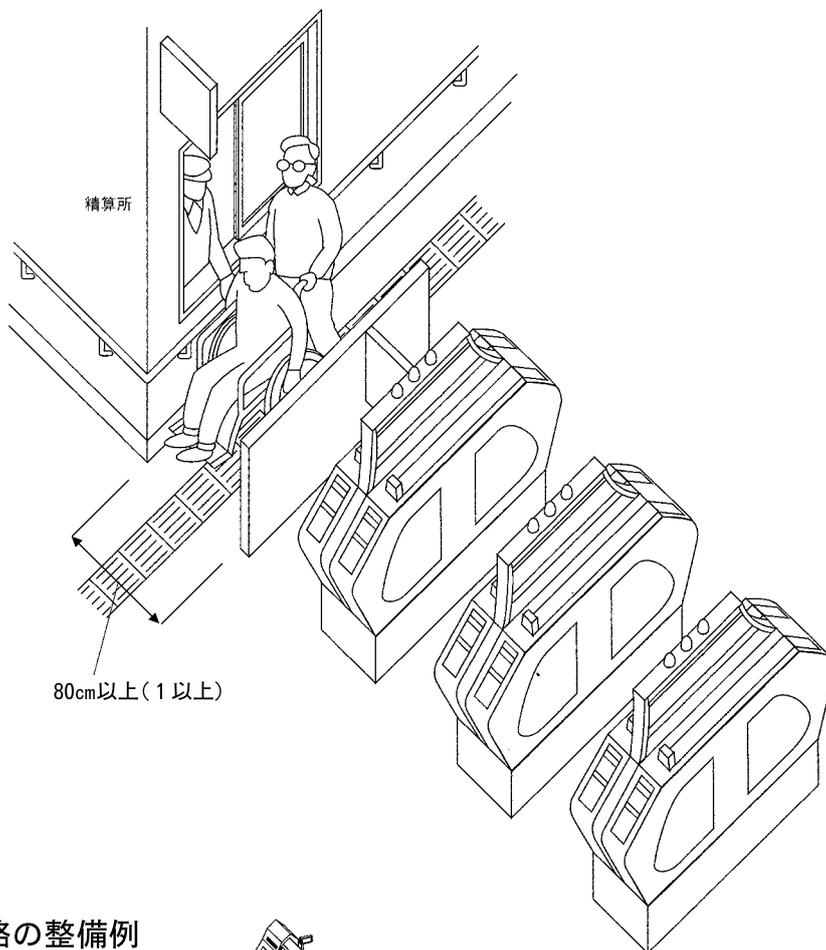


- 有効開口幅は80cm以上とする。
- 洋式便器とする。
- 便器の両側に手すりを設ける。
- 洗面器の高さは75cm程度とする。
- 洗い場の床から浴槽の縁の上端までの高さは40cmから45cmまでとする。
- 浴槽および洗い場に手すりを設ける。
- 車椅子使用者の円滑な利用のために必要な床面積を確保する。
- 室内の適切な位置に手すりを設ける。

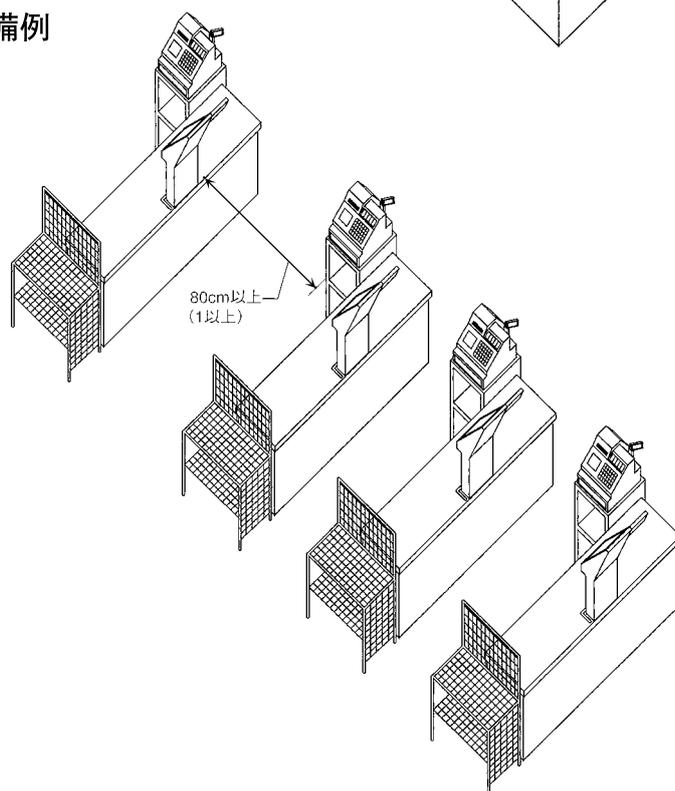
○義務基準  
 △努力基準  
 □参考基準

## 20. 改札口等

### ・改札口の整備例



### ・レジ通路の整備例

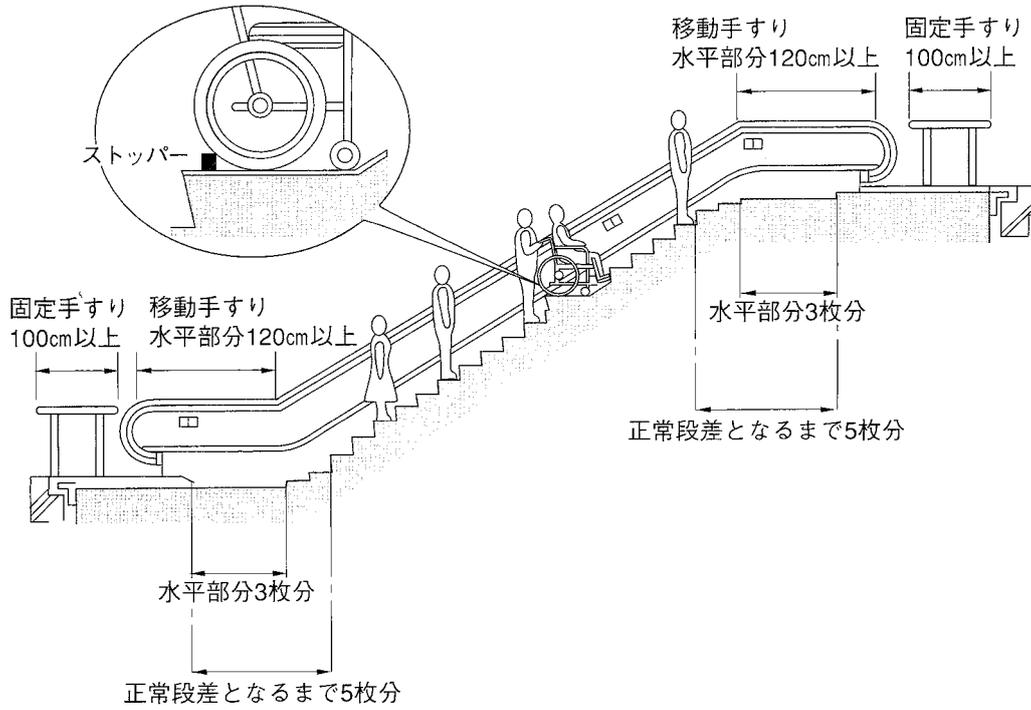


- 幅は内法を80cm以上とすること。
- 車椅子使用者が通過する際に支障となる段を設けないこと。
- 床面は粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。

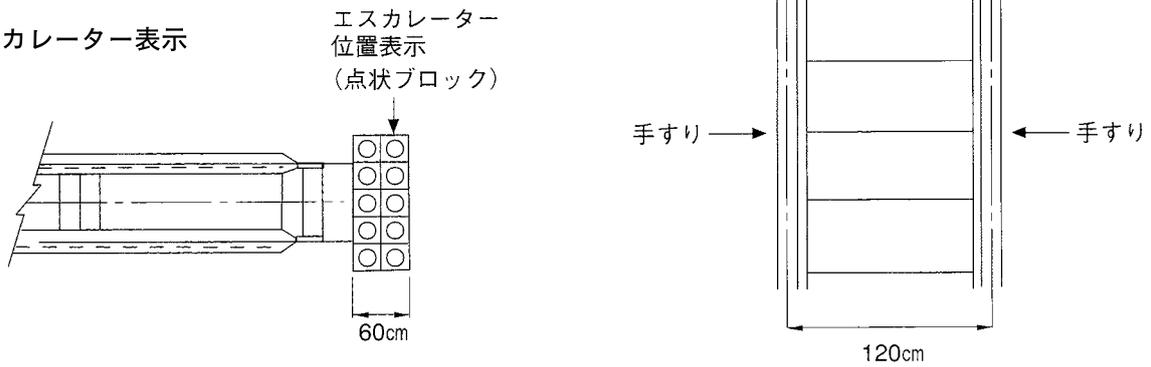
- 義務基準
- △ 努力基準
- 参考基準

# 21. エスカレーター

## ・車椅子対応型エスカレーターの例



## ・エスカレーター表示



・エスカレーターの例

